

平成30年度 認定

茨城県・平成30年度土木学会選奨土木遺産 候補

記入日 平成30年5月

候補の名称 (ふりがな)	北用水樋門 (きたようすいひもん)
完成年	明治33年(1900年)
諸元・形式等	樋門部：幅5.6m、高さ1.02m、煉瓦造り 樋管部：幅1.5m、高さ1.5m、長さ6.56m、煉瓦造り
設計・工事監督	設計者 茨城県技師工学士 関屋 忠正 工事監督者 野田 久次郎
開設者(施工者)	豊田新利根土地改良区
推薦理由	<p>北用水樋門は、小貝川に構築された豊田堰より農業用水を取水し、幹線用水路を通して送られてきた水を、さらに水田へと引き入れるため、建設された煉瓦造りの樋門である。</p> <p>江戸時代に小貝川に建設された豊田堰は、岡堰、福岡堰とともに関東三大関に数えられる関東有数の堰であり、その当時から、この周辺地域では盛んに新田開発が行われてきた。</p> <p>現在の北用水樋門は、木製であったものを明治33年に煉瓦と接合材セメントを用いて改築したものである。</p> <p>北用水樋門が建設された当時は、豊田堰及び当樋門をはじめ北用水路に関連する樋門等も同時期に改築されたが、現在では、当樋門以外は残っていない。</p> <p>当樋門は茨城県において、江連用水旧構宮裏樋門(選奨土木遺産平成28年度認定)と並び現存する最古の煉瓦造り樋門である。</p> <p>設計者は茨城県技師工学士の関屋忠正氏である。</p> <p>是永定美氏の調査によれば、関東地方では煉瓦造り水門等は、木や竹に代わる恒久的な材料として煉瓦を用い明治30年代を中心に前後10年間に多く築造されたが、その後は、セメントの普及と鉄筋コンクリート工法の発展により衰退したものであり、茨城県において存在の確認できた煉瓦造り水門等は17施設で、そのうち現存するものは3施設、①横利根閘門(大正10年竣工、重要文化財、設計者不明)、②江連用水旧構宮裏樋門(明治33年竣工、選奨土木</p>

	<p>遺産、設計者不明)と③当樋門である。また、設計者が判明しているものは、飯沼反町水閘門、六ヶ村入樋、八間堀川樋門の3施設的设计者が笠井愛一郎氏であり、当樋門、岡堰、豊田堰(10連アーチの煉瓦造りの堰)および北用水に関連する立木締切閘門他5施設的设计者が関屋氏である。</p> <p>関屋氏は茨城県の技師として、このように大型の豊田堰をはじめ多数の煉瓦造り水門等を設計しているが、その中で、現存している施設は当施設だけである。</p> <p>北用水樋門は主として煉瓦の小口積みで造られ、アーチ状の樋管の内部も煉瓦造りで。また、樋門のゲートの取り付け部や曲面施工された両側の翼壁の上部には石材が使われ、石の色と煉瓦の色のコントラストが樋門の彩色を際立たせている。</p> <p>また、樋門の上部には銘板が取り付けられており、「北用水樋門」の文字と設計者や工事監督者の名前、竣工年が刻まれている。</p> <p>現在は、農業用水をコントロールする樋門の機能は廃止されているが、樋管上部は町道として供用されている。</p> <p>利根町の指定有形文化財になっており、付近には由来を紹介する看板も整備され、保存状態も良好である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の近代化土木遺産2800選 Cランク ・利根町指定有形文化財
所在地	茨城県北相馬郡利根町大字立木
管理者	豊田新利根土地改良区
管理者連絡先 (同意を得ている担当部局・担当課・係名まで記入)	〒300-1324 茨城県稲敷郡河内町源清田 5960 豊田新利根土地改良区 管理課 電話番号：0297(84) 2226
選定された場合に実施を予定しているアピール方法 (選定前ですので、選定されたら実施したいと考えている内容で結構です)	<ul style="list-style-type: none"> ・土木学会関東支部茨城会が、土木の日の一環として実施している見学会や講演会に土木遺産の紹介を組み込むと共に、県や建設関係団体が協同して例年実施している建設事業PRイベント「茨城県建設フェスタ」で披露する。 ・茨城県土木部、利根町、豊田新利根土地改良区、土木学会関東支部茨城会のホームページ及び広報誌等に掲載しPRする。
公募に関する連絡ご担当者	土木学会茨城会 理事 国際航業水戸営業所 澤島 守夫 〒310-0803 茨城県水戸市城南 1-1-8 Tel 029-221-7251 E-mail:morio_sawahata@kk-grp.jp